

庄原みるくの会

六月七日 庄原市新庄町「かんほの郷庄原」

哺育育成のポイントを学ぶ

庄原みるくの会(代表 市川美子は、哺育育成の技術向上を目的に研修会を開催し、会員七名が参加した。

講師は、全酪連大阪支所三次駐在員事務所の牛島隆一所長と石井健太郎氏が務められた。

講師は、哺育育成牛の管理ポイントに触れ、如何にして健康な牛を飼うかは初乳給与が大切と強調したうえで、哺乳期間中の下痢発生は健全な成長を抑制させるなど



将来への影響が大きいため、下痢発生防止には、流行性以外を別として、哺乳器具の洗浄や代用乳を溶かす湯温、代用乳量などには最善の注意が必要と前置きし、具体的に理路整然な説明が加えられた。参加会員は、育成牛の管理のポイントを捕まえたようであった。

庄原市酪農連絡協議会

七月二日 庄原市新庄町

「ゆめさくら交流ホール」

炎症と生産性を考える 牛の気持ちを感じ対応を



庄原市酪農連絡協議会(会長 向田康浩)は、研修会を開催し、会員十四名その他、庄原市、全酪工業、広酪からは藏崎哲治課長、名越道弘主任(生産振興課)が参加した。

開会にあたり向田会長が挨拶され、藏崎課長からは最近の酪農情勢を説明した。この中で、中国生乳販連では平成三十二年度の運用開始を目指し、会員統一の乳代精算システムの構築に向けた検討を始めており、同連からは「乳成分格差金テール」や「衛生的乳質格差金体系」の素案提示を受けたことから、広酪としては、組合員から広く意見を要望を聞き、検討を進めていきたい方向性を伝えた。

続いて、講師にベリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン獣医師・岩室寿氏を迎え、「乳牛における炎症について考える(炎症と生産性)」と題しての講演を聴いた。



神石地域酪農生産振興協議会

六月二十八日 湯つ蔵さんわ

平成三十年年度総会 少数地域でも協力して 生乳生産に励む



神石地域酪農生産振興協議会(会長 藤井鉄男)は平成三十年年度総会を開催した。開会に先立ち、藤井会長は「管内一件の牧場が廃業され、正組合員二戸・准組合員二名となつて、少数の協議会にはなつたが協力して生乳生産に励みましょう」と挨拶し、第一号議案「平成二十九年事業報告及び収支決算の承認」、第二号議案「平成三十年事業計画(案)及び収支予算(案)、賦課金徴収」、第三号議案「規約の改正」第四号議案「役員改選」を上程し全議案を承認した。

役員改選議案では、会長に藤井鉄男氏を再任、副会長には河上大樹氏の後任として、山本薫氏が就任された。

その後は、関係機関や組合員家族も一緒に和やかに懇親会が行われた。



第64回通常総会 岩竹重城会長・再任決定 平成30年度単年度限定:運営基金から宿泊出役対価の支援を決議

(一社)広島県酪農協会(会長 岩竹重城)は第64回通常総会を開催した。

総会は4会員のうち3会員が実出席、1会員は委任状出席を以て有効成立し、議長には岩竹重城氏が就任し、議事録署名人には鈴木道弘氏、檜高侑祐氏が指名され議案審議に入った。

議案として、平成29年度決算、平成30年度事業計画と収支(案)、運営基金の実施要領の一部改正などを上程し、全て原案どおり承認された。

平成29年度は、酪農ヘルパー事業円滑化対策事業に基づき、円滑化基金から6,001千円を取崩し、広酪が行う酪農ヘルパー事業に対する補助金として同額を交付した。平成30年3月末の基本基金残高は、県補助金分が24,277千円(40%)、団体拠出金は36,415千円(60%)、合計60,692千円となった。また、酪農経営安定対策13,449千円の半額6,724千円を国に対して補助金申請の進達を行った。この他、酪農共済の共済推進にあたった。



平成30年度計画では、広酪からの要請に応じて酪農ヘルパー事業運営基金をもって、酪農ヘルパー員による出役のための宿泊実績に応じた待遇改善のための応分の対価補填を行うことを決定し、この対応は平成30年10月1日から行う。

役員改選議案においては、全役員ともに留任し、総会終了後開催した役員会で、会長の選任が協議され、岩竹重城氏を会長に選任した。

平成30年度通常総会 前委員長・藤岡辰彦氏ご勇退



(再任した温泉川委員長)

広島県酪農政治連盟(委員長 温泉川寛明)は、4会員のうち3会員が実出席、1会員が委任状による出席による全会員出席のもとに平成30年度通常総会を開催した。

議長には規約の定めに基づき、温泉川寛明委員長が務め、議事録署名者

には鈴木道弘氏、檜高侑祐氏を選任した。

総会上程議案は、①平成29年度事業報告並びに収支決算、②平成30年度事業計画並びに収支予算、③平成30年度会費並びに生産者負担金の額の決定及び徴収方法、④役員改選、⑤規約改正の5つの議案で、

何れも原案どおり可決承認した。

平成29年度は、広酪組合員からの酪農対策推進費(生乳1kgあたり2銭)と酪農振興資金(生乳1kgあたり4銭)の拠出金負担2,759千円を受けて活動し、差引金は5,257,709円を次期繰越金とした。

役員改選では、委員長に温泉川寛明氏、副委員長に鈴木道弘氏・岩竹重城氏、委員に川角晴俊氏・檜高侑祐氏・砂子拓也氏、監事に和田慎吾氏、吉川春三氏、顧問に上野千里氏を選任した。

また、永年に亘り当連盟の委員長並びに日本酪農政治連盟の中央委員・常任委員を務められた藤岡辰彦氏が任期満了により退任された。藤岡氏は、これまで飼料価格高騰やTPP問題等、直面した酪農業を取り巻く政治的課題の解決にご尽力され、その貢献と感謝の意を表し、感謝状と記念品贈呈を決定した。